

文献 34

Huguenin L, Brukner PD, McCrory P, Smith P, Wajswelner H, Bennell K. Effect of dry needling of gluteal muscles on straight leg raise: a randomised, placebo controlled, double blind trial. British journal of sports medicine. 2005; 39(2): 84-90. MEDLINE ID: 15665203

1. 目的

大腿後部痛患者のSLR、臀部内旋運動、筋痛に対する臀部トリガーポイントへの鍼刺激の影響の評価。

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT) シングルブラインド

3. セッティング

記載なし。

4. 参加者

59名の男性アスリート

5. 介入

Arm1: 真鍼群 臀部のトリガーポイント3-5箇所への毫鍼刺激 (セイリン製毫鍼 25mm×0.3mm)。

Arm2: プラセボ群 鍼尖を除き、刺入できないものでトリガーポイントを刺激。

6. 主なアウトカム評価項目

介入前後のStraight Leg Raise (SLR)・Hip Internal Rotation (Hip IR)のROM、介入前後および70%の負荷で500m走った後の臀部・ハムストリングのタイトネスおよび痛み (VAS)

7. 主な結果

- 1) ROM: 両群間に有意な差は認められなかった。
- 2) VAS: 両群間に差は認められなかったが、ランニング後のタイトネス、痛み、また臀部のタイトネスは両群で改善した($P<0.01$)。

8. 結論

臀部トリガーポイントへの毫鍼・プラセボ鍼刺激はSLR、Hip IRのROMに影響を与えなかったが、動きに伴う主観的な痛みやタイトネスに影響を与えた。

9. 論文中の安全性評価

記載あり。2名の被験者が鍼刺激によって失神したが、すぐに回復し、実験を継続した。1名がランニング中に異常な胸の痛みを訴えたが、医学的な評価の後、2日目に実験を完了した。

10. Abstractor のコメント

よくデザインされたプロトコルによって臀部トリガーポイントへの毫鍼刺激が関節可動域や痛みに対する効果を検討したものである。リクルートやマスク、解析の方法が詳細に記載してあるため、読者の追試も容易であると考えられるが、記述されているプロトコルでタイトルにあるようなダブルブラインドが適切に行えていたかについては疑問が残る (施術者のマスクが行われているか疑問)。関節可動域についての差はなかったものの、痛みやタイトネスといった被験者の主観に鍼刺激の影響があることは他の介入研究でも散見しており、局所のみならず全身の痛みや身体感覚に関連する指標も併せて評価すると更によい結果が得られるかもしれない。このような優れたデザインによる更に詳細な研究が期待される。

11. Abstractor and date

金子泰久 2016.3.15